

☆☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆☆

東京 SJCD 第 1 回ステップアップミーティングのご案内

熱さ厳しい日が続いておりますが、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る 9 月 19 日(月・祝)に開催致します『東京 SJCD 第 1 回ステップアップミーティング』につきましてご連絡申し上げます。

今回のステップアップミーティングでは、『咬合再構成』をテーマとし 3 名の先生より症例をご提示いただきます。最初に 1 名の先生より症例をご提示いただき、座長、会場、パネリストを交え、咬合再構成の基本に焦点をあててケースディスカッションを行ないます。また 2 名の先生よりこちらも咬合再構成の症例発表が行われます。いずれの先生方のご発表も、会場を交えた熱いディスカッションで、より多くの皆様の勉強になれば幸いです。そして最後の講演では中田典光先生にご登壇いただき、多角的視点から捉えた症例を通じ、皆様と日々の臨床を再確認していきたいと考えております。

前回に引き続き SJCD の根本である白熱した会場全体の参加型ディスカッションを行えるよう、**開始時間を 12:00**とし、各パートでのディスカッションの時間を十分に確保いたしました。お間違えの無いようお願い致します。

歯科医師、歯科衛生士、歯科技工師の方々皆様奮ってのご参加をお待ち致しております。

また、今回も東京 SJCD 会員同士の親睦を深めるためにステップアップミーティング終了後、懇親会を開催します。ぜひ皆様お誘い合わせのうえご参加いただけますようお願いいたします。

日時: 2016 年 9 月 19 日(月・祝) 12:00～16:40

受付開始 11:30

懇親会 17:00～19:00

場所: お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター

Room C(地図別紙参照)

【タイムテーブル】

開会 12:00

12:05～13:10 坂本貞樹 先生

所属:さだきデンタルクリニック

演題:「Angle class II 咬合崩壊患者をインプラントを用いた修復治療で回復させた症例」

【座長】 新藤有道 先生

【パネリスト】 吉田茂治 先生 ・ 武川泰久 先生

賛助企業ご挨拶・休憩 13:10～13:50

13:50～14:35 岸上拓央 先生

所属:ニュータウン中央歯科室

演題:「The Challenge to The Treatment of Complex Restorative Patients」

【座長】 新藤有道 先生

14:35～15:20 渡部真麻 先生

所属:ワタナベ歯科医院

演題:「全身疾患に関連した諸問題を有する患者に対して行った咬合再構成の一例」

【座長】 新藤有道 先生

休憩 15:20～15:30

15:30～16:30 中田典光 先生

所属:なかた歯科

演題:「包括的歯科治療とマイクロスコープを活用した臨床」

閉会 16:40

懇親会 17:00～19:00

*東京 SJCD の会員は、入場の際QRコードが必要となりますので必ずご持参ください。

*東京 SJCD の会員は無料で御参加頂けます。事前の予約等は必要ありませんので当日直接、会場へお越し下さい。

*一般のビジターは Dr.3 万円・Dt.1 万 5 千円・Dh.9 千円となります。(予約不要)

*会員登録は入会された本人に限り有効です。例会・分科会等への代理参加は、同じ医院にお勤めでもお受け致しかねますのでご了承ください。

*講演中の撮影はご遠慮ください。

会場

お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター Room C (<http://solacity.jp>)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6

TEL 03-6206-4855

懇親会会場

お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター Room B (<http://solacity.jp>)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6

TEL 03-6206-4855

交通案内

JRをご利用の場合

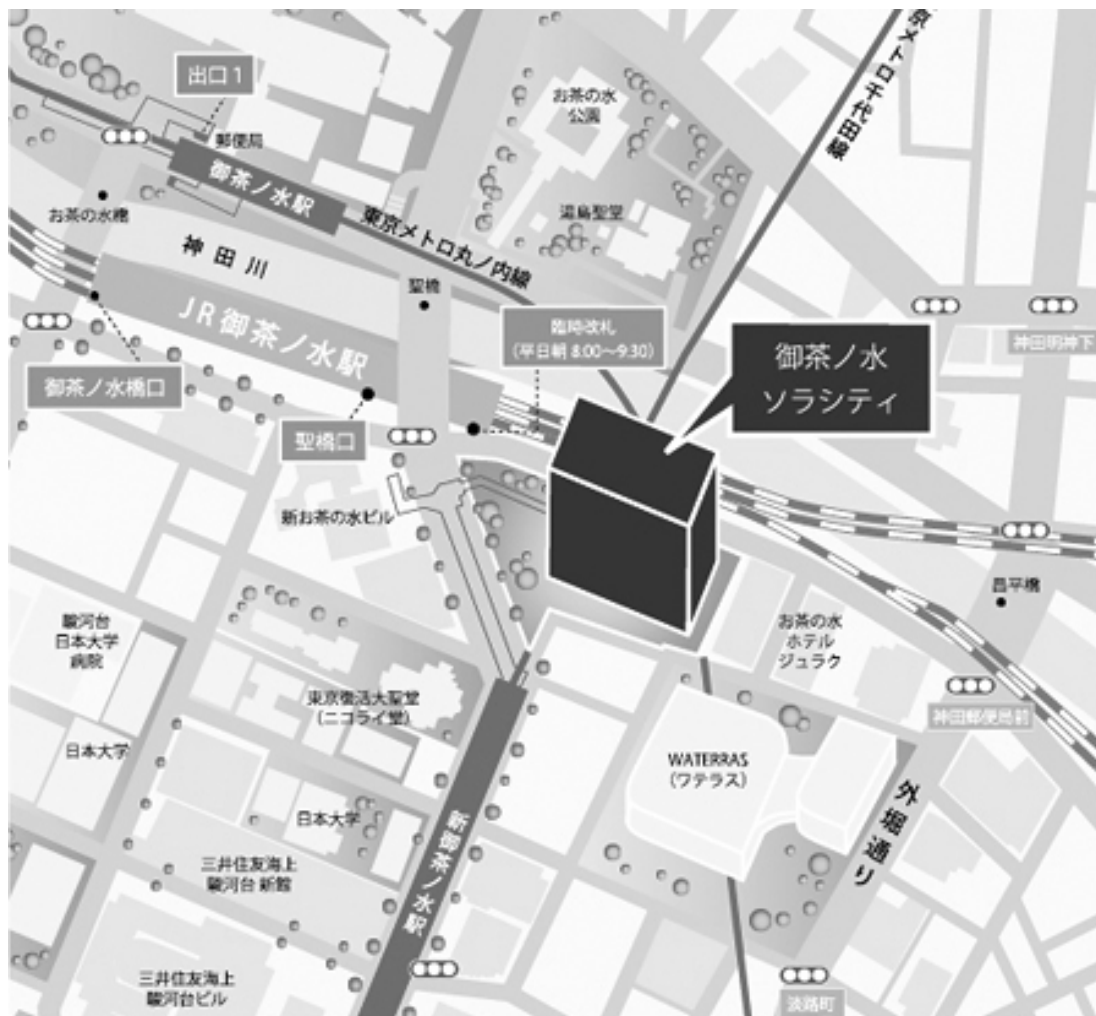
・JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 聖橋口より、徒歩1分

地下鉄をご利用の場合

・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 B2出口1直結

・東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅 出口1より、徒歩4分

・都営地下鉄新宿線「小川町」駅 B3出口より、徒歩6分



さだきデンタルクリニック 坂本貞樹

演題

「Angle class II 咬合崩壊患者をインプラントを用いた修復治療で回復させた症例」

略歴

2004 年 日本大学松戸歯学部卒業

2010 年 代官山アドレス歯科および大河デンタルクリニック勤務

2014 年 さだきデンタルクリニック開院

抄録

Angle class II 咬合崩壊患者の治療はアイディアルプランとして矯正治療を組み込み機能、審美を回復させていくことになるが、今回患者は矯正治療を希望しなかったためにインプラントを用いた修復治療で咬合崩壊を回復させたケースをプレゼンテーションします。その際に治療で工夫したとこ、注意したところなどを解説しますので有意義なディスカッションができればと思います。

ニュータウン中央歯科室 岸上拓央

略歴

2012 年 大阪歯科大学卒業

2014 年 医療法人社団海星会ニュータウン中央歯科室 勤務

演題

「The Challenge to The Treatment of Complex Restorative Patients」

抄録

厚生労働省の調査によれば、15 歳以上で口腔内にインプラントが埋入された患者は 2.6%であり、その当時の日本の人口から推測すると 300 万人近くの患者がインプラントを使って生活を送っていることになる。

日々の臨床においても、すでにインプラントが埋入された状態で来院される患者を目にする機会が多い。

本症例もすでにインプラントが埋入された患者に対して咬合再構成を行った症例であるが、診査診断の重要性に再度気付かされながら何らかの指標を見つけるために手探りの中考察を重ねた症例を提示させて頂きたい。

ワタナベ歯科医院 渡部真麻

演題

「全身疾患に関連した諸問題を有する患者に対して行った咬合再構成の一例」

略歴

2012年 日本大学歯学部 卒業

同年 医療法人社団同仁会ワタナベ歯科医院 勤務

2013年 THE DAWSON ACADEMY JAPAN 受講

ADVANCED ENDODONTICS with Dr.Ruddle 受講

2014年 SJCD レギュラーコース 受講

2016年 IDEA Intense Hands-On Course; Anterior esthetics with Dr. Pascal Magne 受講

SJCD マスターコース 受講

抄録

局所での治療を繰り返した結果、咬合崩壊を招いてしまうことは珍しくない。患者の主訴に対応することも大事な治療ではあるが、「その背景に何があるのか」という原因を探った上で治療へ介入することが重要だと考えている。今回は患者の全身的な既往も含めて考慮した上で取り組んでいる治療について、ご報告させていただきます。

なかた歯科 中田典光

演題

「包括的歯科治療とマイクロスコープを活用した臨床」

略歴

1986年 日本大学松戸歯学部 卒業

1992年 なかた歯科(茨城県常総市) 開業

抄録

審美修復治療は、顔と口唇、歯と歯列のバランスを整えていくことにあります。その結果、すてきな笑顔を提供し、その人の人生にとって、明るく笑う事の精神的開放感、自然に大きな口で笑う事の幸せ感を満喫して頂ける口腔内環境を作り上げる事にあると思います。

わたしたち歯科医師は、人工修復物にとってより良い環境を、作り上げることが重要で、様々な条件を精査し、分析し、治療計画を立てることで、形態と機能を回復すると同時に、審美性を獲得する事が、重要な(鍵)“カギ”になります。下記に示す内容で、合同例会でのケースを提示します。

また、マイクロスコープを使った治療が、歯科雑誌や講演会等で見られ、その活用法について歯科界に浸透しつつある状況です。拡大下での歯科治療には、歯科用ルーペも使用されますが、マイクロスコープと圧倒的に有用性に差が出るのは、拡大による診断能力の、向上性にあると思います。根管治療においてもその有効性は明らかです。

しかしながら、日本国内で販売されているマイクロスコープは約 4000 台と言われ、普及にはまだまだ時間がかかりそうです。買ったとしても、すぐに経済効果が見込めるものでないと言う事と、マイクロスコープを使いこなす為には、トレーニングと慣れる為の時間(長期間)が必要な事が普及率があがらない原因と思っています。少しでも歯科治療のレベルアップをとお考えの先生に、使用法をお見せ出来ればと思います。

-Significant Alteration in Aesthetic Flame Work- (2010 仙台合同例会 タイトルと抄録)

かつて歯周補綴の時代において、力と炎症のコントロールが修復治療の要であるといわれてきたが、現在においてもその原則は必須の条件であることは間違いない。

昨今においては、患者の審美的な要望の高まりもあり、咬合、歯周組織の保全および審美的 3 点が重要な条件となる。要するに、修復治療の目的は、失われた審美性、機能を回復させ、残存組織の保全をはかることにあり、そのうえ構造力学、生物学的恒常性を満たすことで、予測性、永続性が得られることになる。

また修復治療とは、そこにあるべき姿を再現することであり、Arch Form、Teeth Form と Oral Composition 歯冠、歯列の全顎的な周辺組織との調和がとれていることが重要であり、これら修復治療の 3 要素が得られることで口腔の健康が長期にわたり保証(Longevity)するともいわれている。(Biological Crown Contour 桑田正博 医歯薬)

Form follows Function (形態は機能に従う)とは、超高層建築の父 Louis Sullivan により提唱された設計、デザインの原理であり、機能をバックグラウンドとしないで作られた形は、永続性は持たないとされている。繰り返しになりますが審美と機能の両立が大きな Key Point になり、口腔内のみに着目するのではなく、口唇、顔貌、顎関節周囲組織との調和した審美を考慮することが重要になる。

今回のケースは、下顎両側臼歯部において過去のインプラントであるブレードタイプインプラントの動揺、また前歯部に審美障害、臼歯部の挺出等の問題点があり、修復治療を行ったものを提示する。ブレードタイプインプラントを除去し、GBRとインプラント埋入を行った。咬合崩壊の直前で、新たなインプラントにより下顎の Vertical Stop を確保した。また、上顎が天然歯で挺出しているという条件もあり、私なりに考慮し、また苦慮しながら治療を進めてきた。この症例を通じインプラントの効果や、その背景にある補綴要件の難解さと予測性、歯列の保持、咬合平面の是正、顔貌からの評価等、私なりの考察を加えたので、ここに報告提示する。